

国有林間伐・再造林推進コンクール 大澤木材株式会社が優秀賞を受賞

2月27日、北海道森林管理局大会議室において、平成30年度国有林間伐推進コンクールで林野庁長官賞（優秀賞）に選ばれた「大澤木材株式会社」への長官表彰の伝達が行われました。



大澤木材株式会社(左)と森林管理局長

同コンクールは、国有林野事業における間伐等の発注事業や立木販売において、優れた品質の森林整備を行うとともに、高い生産性、作業システムの特徴や成果等の取組を競い、優秀な事例を公表することにより、高効率かつ低コストな間伐等

について民有林を含めた普及、定着及び推進に資することを目的としています。
なお、今年度のコンクールでは、林野庁での審査の結果、全国で最優秀賞1事例、優秀賞3事例が選ばれています。

優秀賞を受賞した「大澤木材株式会社」の事例

これまで、7台の高性能林業機械、7名のオペレーターの編成で行われ



フォワーダ（手前）とハーベスタ（奥）による作業

ていた伐採搬出作業を2種類のハーベスタ、ローダー付きフォワーダの2台と2名のオペレーター

によるコンパクトなCTLシステム（※）で高い生産性を可能としました。実施に際し、フォワーダは列状間伐時の伐採列を走行路として活用、搭載されたローダーで自ら積み込み積卸しし積積を積み、ハーベスタは材の2度掴みを回避するなど作業の無駄を排除し伐倒し木寄せし造材を実施、グラップルの待機時間、燃料経費などコスト縮減に成功し、1人当たり13.

○従来方式と現行方式の作業システムの違い

従来方式（7人1セット 5.8 (m³/人日) の生産性）



現行方式（2人1セット 13.2 (m³/人日) の生産性）



2立方メートルの生産性を可能にしたものです。また、取組にあたり、環境保全のための簡易な汚泥防止柵工の設置、人材育成のために積極的に若手が高性能林業機械へ乗る機会を増やす、安全

分収造林感謝状の贈呈

2月27日「平成30年度分収造林契約感謝状」の贈呈式を北海道森林管理局大会議室で開催しました。

分収造林制度は、会社や団体等の契約者が契約に基づき、国有林野に木を植え、一定期間育て、成林後、分収木を販売し、その収益を契約者と国とで、契約に定めた割合で分収する制度です。
平成30年度に分収造林契約をご締結いただいた

対策のために小班毎にリスクアセスメントを実施するなど、熱心な取り組みも評価されました。
なお、最優秀賞を含む表彰全体の概要は林野庁HPで紹介しています。
（資源活用第二課）

江本木材産業(株)、大澤木材(株)、(株)幸稜、佐藤木材工業(株)に対し、国民参加の森林づくりとして、国有林の森林整備の推進にご賛同いただいたことに対し、北海道森林管理局より感謝状を贈呈しました。
（森林整備第一課）



右から江本木材産業(株) 江本博幸様、大澤木材(株) 大澤友厚様、森林管理局長、(株)幸稜 金野眞幸様、佐藤木材工業(株) 佐藤教誘様

※CTL システム：CTLとはCut To Length の略で伐採木を一定の長さの丸太に切って集材すること。一般にハーベスタで切った丸太をフォワーダで集材する林業機械の作業仕組。